

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
1	15 時頃	住宅用火災警報器	女性(60歳代)がガスこんろを使って鍋で煮物を調理中に、隣棟の作業所に行って作業していたところ、鍋が空焚き状態となり発煙した。	隣棟に居住する主婦が部屋にいと、隣の長屋から警報音が聞こえ焦げ臭い匂いもしたため、長屋に行って声を掛けたが不在だったので、隣の作業所にいた女性(行為者)に状況を知らせた後、119番通報した。 知らせを受けた女性は、自宅に戻るとガスこんろ上で煮物が焦げ、煙も充満していたので、こんろの火を止めた。	非火災
1	21 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性(70歳代)が鍋で魚と野菜の煮物を温めるために、ガスこんろに火をつけ、隣室で寝入ってしまったために、鍋が空焚き状態となり発煙した。	共同住宅隣戸の男性が帰宅し、室内にいた時に隣戸から警報音が聞こえたので廊下に出ると換気扇から煙が出ていたので、近くに居住する大家に電話した。大家の息子が確認に向かう途中、アパートの2階に上がる階段部分で煙が見えたので携帯電話で119番通報した。居住者の男性は消防隊が到着しても寝入っている状態であった。	非火災
1	9 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性(30歳代)が電気ストーブをつけたまま就寝し、就寝中にストーブに毛布が接触し出火した。	就寝中、台所に設置の火災・ガス漏れ複合型警報器の警報音声で目が覚めた。自分の掛けていた布団から煙が出て、部屋に煙が充満していたので、台所からやかんに水を汲んでかけ、消火した後119番通報した。同人は下腿部に軽い熱傷を負った。	
1	5 時頃	住宅用火災警報器	女性(80歳代)が起床後、同室の石油ストーブを点火し、部屋が暖まるまでと、もう一度布団に入っていると、石油ストーブの芯のあたりが燃え出した。	長屋住宅に居住する男性(50歳代)が就寝中、隣戸から住宅用火災警報器の警報音が鳴りつづくので、玄関から外に出ると、隣戸の換気扇から煙が出ていた。火事だと大声で叫び、その声を聞いた長屋住宅の女性が119番通報した。火災を発見した男性は、部屋から助けを求める女性の声があったので、ドアを開けると石油ストーブから炎が上がっていたので、女性を屋外に出した後、洗面器に水を汲んで消火した。	
1	0 時頃	住宅用火災警報器	男性(60歳代)がガスこんろに鍋をかけたまま出勤したため、鍋が空焚き状態となった。	共同住宅隣戸の居住者が、警報音が長く続くので、屋外通路に出て隣戸を見ると、換気扇から白煙が出ていた。玄関ドアを叩いたが返事がなかったので119番通報した。消防隊が窓を破壊して、進入、ガスこんろの火を止めた。	
1	23 時頃	住宅用火災警報器	男性(70歳代)が、オーブントースターで魚を焼いていたところ、トースター下部のトレーに溜まっていた油がヒーターの熱で発火し、段ボール箱に着火した。	男性が台所で他の調理をしていたところ、台所設置の住宅用火災警報器が鳴動した。オーブントースターを見ると、置台に使っているダンボールから煙が出ていたので、水道水をボールに汲んで消火した。同じ共同住宅の居住者が警報音で駆けつけ、119番通報した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
1	5 時頃	住宅用火災警報器	男性（20歳代）が電気ストーブをつけたまま就寝中、掛け布団がストーブに接触し着火したもの。焦げ臭さで目を覚ました男性は、布団を廊下を持っていき水をかけて消火したが、完全に消しきれてなかったために再燃した。	男性が就寝中、住宅用火災警報器の警報音で目を覚ますと、煙が充満し、廊下に出しておいた布団がくすぶっていたので、再び水をかけ消火した後、屋外のゴミ置き場に運んだ。近所の主婦がゴミ置き場で布団が燻っているのを発見、足で踏み消した後、消防出張所に通報した。	
1	12 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（70歳代）が天ぷら鍋を使って調理中、飛び散った油が鍋の外側に付着、その場を離れている間に、垂れてきた油がガスの炎で引火した。	女性は出来上がった料理を居間に配膳中、台所に設置の火災・ガス漏れ複合型警報器から「火事です、火事です」の警報音声が聞こえたので台所に行くとも鍋から炎が立ち上がっていた。娘（47歳）に通報をさせ、鍋の蓋を被せ、その上に座布団を覆い、水道水をかけて消火した。	
1	20 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）が台所で天ぷらを揚げている際に、電話を受け、話している間に天ぷら油が過熱し発火した。	女性は住宅用火災警報器の警報音に気づき台所に戻るとフライパンから炎が立ち上がっていたので、水に浸したバスタオル数枚と鍋の蓋でフライパンを覆い、水道水をかけて消火した。	
2	1 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性（20歳代）が暖をとるためカーボンヒータをベッドのそばで使用していたが、就寝中に掛け布団がヒータに接触し出火した。	男性は就寝中、ガス漏れ複合型警報器の警報音で目を覚ますと布団が燃えていたので、布団を叩いて消火を試みたが消火できなかった。同共同住宅に居住する男性（30歳代）は、「火事だー」と言う声で外に出ると黒煙が見えたので119番通報した。	
2	2 時頃	住宅用火災警報器	男性（20歳代）が電気ストーブをつけ、布団に入りながら携帯電話を操作しているうちに寝入ってしまい、就寝中に掛け布団がストーブに接触し出火した。	男性は就寝中、住宅用火災警報器の警報音で目を覚ますと、室内は煙が充満し、掛け布団に炎が見えたので、足で踏み消した後、119番通報した。	
2	2 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性（40歳代）が台所でガステーブルを使って煮物をしている途中に別室で寝込んでしまったために、鍋の空焚きとなり発煙した。	共同住宅の上階に居住する女性（40歳代）が階下から「火事です」と音声聞こえたので外に出ると、階下の換気扇から白煙が噴出していた。ドアを叩いたが応答がなかったので119番通報した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
2	19 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）が味噌汁の入った鍋をガステーブルにのせ、温めている間に、近くにあった合成樹脂の食器ケースに接炎し出火した。	同女性（全盲）がガステーブルの火を消した後、も付近が温かいので、変だと思っていたところ、台所に設置してある住宅用火災警報器が鳴動した。火災だと思い廊下に出、通りかかった同共同住宅の居住者の女性（60歳代）に火災を知らせた。知らせを受けた女性は、室内を見ると食器ケースの蓋が燃えていたので、タオルに水道水を含ませ叩き消した。通報は民生委員が現場を確認後近くの消防出張所に来所し状況を知らせた。	
2	10 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（70歳代）が台所で、ガステーブルを使って、鍋で餅を煮付けている途中で、隣室でテレビを見ていたために鍋の空焚きとなり発煙した。	テレビを見ていた女性（70歳代）は台所に設置の火災・ガス漏れ複合型警報器の警報音声で異常に気づき、ガステーブルのスイッチを切った。一方隣家の住人が「火事です」の警報音声を聞きつけ119番通報した。	非火災
2	17 時頃	住宅用火災警報器	男性（50歳代）が布団上で飲酒しながら吸っていたたばこの火種が布団上に落下し、無炎燃焼を継続後出火した。	火元の男性は買い物から帰宅する途中の共同住宅の階段付近で住宅用火災警報器の鳴動音を聞き、階段付近で出会った同共同住宅の居住者と共に自室に戻ると煙が充満し、布団が燃えていた。火元の男性は燃えていた布団に水道水をかけ消火した。一方出会った男性（70歳代）は自室に戻り119番通報した。	
2	12 時頃	住宅用火災警報器	男性（80歳代）が台所でガスコンロを使って、鍋で煮物をしている途中に、隣室でテレビを見ていたために鍋が空焚き状態となり発煙した。	隣人の女性が住宅用火災警報器の音と2階からの煙で火事だと思い、男性宅に行くと煙が多かったので119番通報した。男性は隣人の声で初めて気がつきコンロの火を止めた。	非火災
2	11 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）が台所でガスコンロを使って、鍋で小豆を煮ながら、隣室で家事をしている間に鍋が空焚き状態となり発煙した。	女性は台所で警報音がしたので、何が起きたのか分らず、誰かに知らせなければと外に出た。3軒隣で改装工事をしていた工務店員に出会い、警報音のことを知らせた。工務店員が女性宅に行くと、警報音が鳴動しており、白煙と焦げ臭い匂いもしていたので、女性宅の電話から119番通報した。	非火災
2	20 時頃	住宅用火災警報器	男性（20歳代）がガステーブルのグリルで魚を焼いていたが、そのことを忘れその場を離れているうちにグリル内の油かす等に着火した。	男性（20歳代）は隣室の居室でくつろいでいたところ、台所から警報音がしたので、台所の扉を開けると、煙が充満しグリルの排気口から炎が出ていた。男性はグリルの点火スイッチを切った後、水に濡らしたタオルを被せ、その上から水をかけ消火した。窓を開け排煙した後119番通報した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
2	0 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	男性（20歳代）が灰皿にためてあったたばこの吸い殻をごみと一緒にビニール袋の中に入れて洗濯機の上に置いていたため完全に消えていなかったたばこが燃え出した。	男性（20歳代）は就寝中、警報音で目を覚ますと部屋の中に煙がただよっていた。台所のほうを見るとごみ袋から炎が立ち上がっていたので水道水をコップに汲んでかけたが消えなかった。煙かったので玄関のドアを開け外に出た。共同住宅の隣に住む男性が水バケツを持ってきて燃えているごみ袋にかけて消火した。通報は通行人が携帯電話から119番した。	
2	5 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（70歳代）が、石油ストーブの燃焼筒を外して使用する等不適切な使用をし、さらに何等かの原因で灯油をこぼしたために引火した。	2階で就寝していた娘（40歳代）が火災・ガス漏れ複合型警報器の鳴動に気づき、階下に行くところ石油ストーブが燃えていた。新聞配達員（近隣者）が帰宅途中鳴動音と煙が見えたので、自宅から消火器を運んで消火した。	
2	23 時頃	住宅用火災警報器	男性（30歳代）が所有する食器洗い乾燥機のヒーター部端子接続部のゆるみにより発熱出火したものと推定	3階にいた男性（30歳代）は寝ようとしたところ、階下から住宅用火災警報器の警報音が聞こえたので、2階に下りると台所が煙で充満していた。食器洗い乾燥機の扉を開けたところ炎がでていた。3階にいた妻（30歳代）と1階にいた母親（50歳代）が警報音で2階にきてボールやコップを使って消火した後、119番通報した。	
2	20 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）が台所でガステーブルを使って煮物をしている途中に別室にいて、夫（80歳代）とテレビを見ていたところ、鍋が空焚きとなった。	夫（80歳代）はテレビを見ていたところ、住宅用火災警報器の警報が鳴り出したので、台所に行くところ鍋から煙が出ていたので、ガステーブルの点火スイッチを切ってから119番通報した。	非火災
2	10 時頃	火災・ガス漏れ複合型警報器	女性（80歳代）が台所でガステーブルを使って煮物をしている途中に別室にいて、横になっているうちに寝込んでしまい、鍋が空焚きとなった。	同じ共同住宅に居住する女性（40歳代）が通勤のため共用通路を通っていたところ、室内から「ピョーピョー」と音が聞こえたので、ドアポストに耳を当てると、「火災警報器が作動した」と警報音声が続いていた。管理人に知らせるとともにドアを叩いたが応答がなく、ドアポストの隙間から白煙が見えたので119番通報した。なお、居住者の女性は消防隊が到着するまで警報音に気づいていない。	非火災
2	23 時頃	住宅用火災警報器	男性（20歳代）がレトルト食品をガスコンロで調理中に別室で寝込んでしまったために、鍋が空焚きとなった。	男性は住宅用火災警報器の警報音で目を覚ましたところ鍋から煙が出ていたので、ガスコンロの点火スイッチを切った。同じ共同住宅に居住する男性が住宅用火災警報器の警報音が続くので119番通報した。	非火災
3	21 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）が2階の台所でコンロを使って調理中、入浴してしまったために鍋が空焚きとなった。	女性（70歳代）が1階で入浴中に住宅用火災警報器の警報音が聞こえたので、2階の台所に行くところ鍋から煙が出ていたのでコンロのスイッチを切った後119番通報した。	非火災

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
3	13 時頃	住宅用火災警報器	男性（60歳代）が昼食の準備でガスコンロを使って調理中に別室で寝込んでしまったために、鍋が空焚きとなった。	同じ共同住宅の直上階に居住する男性（30歳代）が自室にいたところ、警報音がするので、ベランダに出ると、下の階から煙が上がっており、途切れる気配もないので火災だと思い119番通報した。占有者の男性は警報音に気づいていないと推定される。	非火災
4	11 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）が昼食の準備でガスコンロを使って調理中に外出してしまったために、鍋が空焚きとなり発煙した。	隣人女性(50歳代)は、自宅3階にいと、窓越しに隣家の窓から煙が見え、「火事です火事です」との警報音が聞こえたので、火事だと思い誰かに知らせるために外に出ると、隣人の女性(40歳代)がいたので、火事を知らせ、自宅に戻り119番通報した。	非火災
4	12 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）が湯沸し用電気ポット（プラスチック製）をガスコンロにのせてスイッチを入れたためポットが燃え火災となった。	同居者男性（80歳代）は居間にいると住宅用火災警報器の「火災が発生しています」との音声を聞いて台所に行くと、ガステーブル上の湯沸し用電気ポットが燃えているのを発見した。ガステーブルの火を止め、ガステーブルを外に出した。隣人の女性（30歳代）は自宅で洗濯をしている際にピーピーという音と「火災が発生しています」との音声を聞いたので火事だと思い自分の携帯電話で119番通報した。	
4	1 時頃	住宅用火災警報器	男性（50歳代）は、煮物が入った片手鍋をガステーブルにかけ、温まるまで隣の部屋で待った。男性は、コタツに入って寝てしまい、その間に鍋が空焚き状態となって発煙した。	隣人の男性（70歳代）は隣の家からピーピーという警報音を聞き、隣を見ると電気がついていたが、誰も警報音を停止する様子もなく、鳴り続いたので、自宅の電話で119番通報した。	非火災
4	0 時頃	住宅用火災警報器	女性（90歳代）は、やかんをガステーブルに掛け、寝てしまったため、発煙し空焚きとなった。	隣家の男性（年齢不明）は、隣家の警報音を聞き、合鍵を使用して中に入ったところ、ガステーブル上のやかんが空焚き状態になっていたため、ガステーブルの火を止めた。なお、居住者女性（90歳代）は、認知症でしかも耳が遠く、警報器が鳴動していた時は、寝込んでいて気がつかなかった。	非火災
4	13 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）は、天ぷらを揚げている際にその場を離れたため、天ぷら油が熱せられ発煙した。	女性（70歳代）は、警報器の音で気がつき、台所に行くと天ぷら鍋から煙がでていたので、コンロの火を止め、119番通報した。	非火災

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
4	0 時頃	住宅用火災警報器	隣棟建物との敷地内にあるごみ上に、火のついたたばこの吸い殻を投げ捨てたため、時間の経過とともに出火したものと推定。	男性（40歳代）は、店舗併用住宅の飲食店を閉店させ、2階の自宅にいたところ、きな臭い臭いがしたので外へ出ると、白い煙が上がっているのを確認し、店長へ連絡した。 連絡を受けた店長は、住宅に設置した住宅用火災警報器が鳴動していたので、公衆電話から119番通報した。 建物の外の堆積していたゴミに、何者かが火のついたたばこを投げ捨てたため出火し、その煙が住戸内に入り発報したものの。	
5	5 時頃	住宅用火災警報器	男性（30歳代）は、パスタを茹でようとしてこまろに鍋をかけ、火をつけたまま居間で寝てしまったため、鍋が空焚きとなり発煙した。	男性（30歳代）は、居間で寝てしまったが、警報音で気がつき、台所に行ってこまろの火を止めた後119番通報した。	非火災
5	13 時頃	住宅用火災警報器	女性（20歳代）は、13時間前に3階の自室でたばこを吸い、吸殻を灰皿で消したが完全に消えていないと認識しつつも、そのまま紙くず等の入ったビニール製のゴミ袋に入れてその場を離れたため、時間の経過とともに無炎燃焼を継続し出火した。	男性（10歳代）は、3階の自室でテレビゲームをしていると、廊下の方から警報音が聞こえたため廊下に出て長女（20歳代）の部屋を見ると、窓側近くで炎が見えたので火事だと思い、2階に降りて父親（50歳代）に知らせた。3人協力して台所からバケツに水道水を汲んで消火したが効果はなく、父親が2階から119番通報したところ、電話を通じ消防職員からすぐに避難するよう指示されたので4人全員で避難した。なお、父親は、初期消火の際、炎に煽られて顔面に熱傷を負った。	
5	1 時頃	住宅用火災警報器	女性（40歳代）は、母親とけんかした後、ライターで紙に火をつけダンボールの上に置いたため燃え上がったもの。	女性（40歳代）は、ライターで紙に火をつけた後、外に出たが、怖くなって公衆電話から119番通報した。就寝中の女性（60歳代）は警報器の音で目を覚まし、煙に気付いて外に避難した。	
5	10 時頃	住宅用火災警報器	女性（90歳代）は、魚を温めようとガスグリルに入れ、火をつけたのを忘れて寝てしまったため、魚が焦げて発煙した。	向かい側建物4階の住民が自宅ベランダ側から警報音を聞き、すぐ音のする建物に向かったが玄関は施錠されていた。内部は確認できなかったが、同様に駆けつけた近隣の女性（70歳代）の携帯で119番通報し、他の近隣女性（60歳代）は、ガラス窓を叩いて居住者に火災を知らせ、音で気がついた居住者女性（90歳代）が玄関の鍵を開けたので、中に入ると台所の方から煙が出ていた。 ガラス窓を叩いた女性は、窓を開け、ガステーブルの火を止め、住警器を停止させた後、居住者と一緒に出た。	非火災

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
5	10 時頃	住宅用火災警報器	居住者が、味噌汁を温めようと、台所のガステーブルに鍋をかけたが、そのまま忘れて全員で外出したため、鍋が空焚き状態となり、発煙したものの。	隣家の女性（50歳代）は、警報音に気づき、隣の家から煙が出ているのを確認した。外に出ると、きなくさい臭気を感じたため、近くにいた人に火災の通報を依頼した。通報の依頼を受けた男性（50歳代）は自分の携帯電話で119番へ通報した。	非火災
5	2 時頃	住宅用火災警報器	何者かが何等かの火源を用いて、玄関先に置かれた傘に放火したものの。	女性（30歳代）は、自宅3階の部屋でテレビを見ていると、「ピーピー」という警報音がしたので階段を下りていくと、2階の踊り場が、きなくさい臭く、白い煙が充満していたので、夫（20歳代）に知らせた後、携帯電話で119番通報した。隣人男性（30歳代）は、自宅2階で寝ていると、外で男が騒いでいるので窓を開けて見ると「火事だー」と叫んでいるので外に出た。同男性は、2件隣の玄関先が炎を上げて燃えていたのを確認し、自宅玄関の水道ホースを延長し水道水により消火した。	
5	8 時頃	住宅用火災警報器	男性（20歳代）は、スパゲッティを茹でようと鍋に水を入れて、ガステーブルに火をつけたまま、寝てしまったため、鍋が空焚き状態となり発煙した。	隣人男性（30歳代）は、アルバイトから帰宅すると、隣の部屋からピーピーという警報音が聞こえたので、ドアをノックした。応答がなく扉を触ると熱かったので火事かも知れないと思い、携帯電話で119番通報した。消防隊が到着した頃、居住者は目を覚まし、ガスを消し、ドアを開けたので、消防隊が部屋に入り確認すると鍋が空焚き寸前の状態であった。	非火災
5	21 時頃	住宅用火災警報器	男性（70歳代）は、夕食の準備のため片手鍋をガステーブルに掛け火をつけたまま寝てしまったため、時間の経過とともに鍋が過熱され、出火した。	同じアパートの居住者女性（50歳代）は、外出先から戻ってきたところ、アパートの1室から住宅用火災警報器が鳴っており、窓の隙間から焦げくさい臭いがしたので、火事だと思い携帯電話で119番通報した。その部屋に寝ていた男性（70歳代）は、消防隊にインターホンで起こされて台所のガステーブルの火を止めた。	
5	4 時頃	住宅用火災警報器	冷蔵庫の上に載せてある電子レンジに、使用していた延長コードをドア枠等にステップルで止め固定していたため、縫り線が破損し、ジュール熱が蓄積されコードの被覆が溶融し、短絡し、出火した。	居住者の男性（30歳代）は就寝中、警報音で目を覚ました。男性は、煙の場所を確認したところ、台所の冷蔵庫の裏側から火が出ていたので「火事だ」と叫んだ。別棟のアパートの居住者女性（60歳代）は、男声の叫び声を聞き付け外を見ると、北側の建物から白煙が出ていたので携帯電話で119番に通報した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
6	9 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）は、味噌汁をガステーブルに掛け、温まるまで居間でテレビを見ていたため、味噌汁が沸騰して空焚き状態となり発煙した。	女性（70歳代）は、居間でテレビを見ていたところ、突然住宅用火災警報器が鳴ったので、味噌汁を温めていたことを思い出し台所に行くと、鍋から煙が出ていたので、ガスを止め、その後119番通報した。	非火災
6	23 時頃	住宅用火災警報器	男性（30歳代）は、魚を焼いている際にその場を離れて居室で眠ってしまったため、魚が焦げて発煙した。	隣人男性（40歳代）は、自宅にいと隣の家から警報音が聞こえるので火事だと思い自宅の電話で119番通報した。火元男性（30歳代）は、通報者に起こされた後、自分でガスの火を止めた。	非火災
6	11 時頃	住宅用火災警報器	男性（50歳代）は、ベッドでたばこを吸っていた際、たばこの火種が布団に落下したが、気付かずに寝てしまったため、時間の経過とともに無炎燃焼を継続し、出火した。	同じ建物に住む男性（70歳代）は、自宅1階の台所付近にいと隣の家から「ピーピー」という音が聞こえた。男性は、妻（70歳代）に119番通報するように伝え、隣の家の中を確認しようとしたところ、玄関の引き戸に鍵が掛かっていたので戸を何度も叩き居住者の男性に鍵を開けさせた。男性は、部屋の中を確認すると、ベッドの布団から煙が出ていたので、台所にあったバケツに水を汲み、布団に3～4回かけて消火した。	
6	14 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）は、天ぶらを揚げるため、油の入った鍋をこんろに掛けたまま、その場を離れたため、時間の経過とともに鍋が過熱され、発煙した。	隣家の女性（50歳代）が自宅でピーピーという警報音を聞き付け、外へ見にいくと、勝手口で住宅用火災警報器の外部スピーカーが鳴動していたので、友人の女性（30歳代）に119番通報を依頼した。なお、火元の居住者女性（80歳代）がガスこんろの火を止めた。	非火災
7	21 時頃	住宅用火災警報器	放火の可能性	子供（5歳）は、自宅2階で本を読んでいると1階でピーピーと警報音がしたので、1階に降りると煙でいっぱいだったので自宅東側のガレージに行き父親（40歳代）に知らせた。隣人の女性（60歳代）は、自宅2階ベランダにいたところ、「火事だ」という子供の声を聞き、隣の家に行くと白煙が出ていたので119番通報した。火事になった家の男性（40歳代）は、自宅のホースを延長し水道水により消火した。	
7	19 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）は、カレーを温めようと鍋をガスこんろに掛け火をつけたまま外出してしまったため、鍋が過熱され空焚き状態になり発煙した。	同じアパートに居住する男性（60歳代）は、805号室の前を通った時、強い臭気と警報音を聞き、廊下にあるガスの緊急停止ボタンを押すとともに804号室の女性（60歳代）に119番通報するよう依頼した。依頼を受けた女性が119番通報した。	非火災

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
7	16 時頃	火災・ガス 漏れ複合型 警報器	女性（70歳代）は、ガステーブルの魚焼きグリルで魚を焼いていたところ、かかってきた電話に出るために、その場を離れ、グリルが過熱し出火した。	女性（70歳代）は、電話で話し中に警報音が聞こえたので、台所に行くと煙と炎が上がっているのを発見し、付近を通りかかった女性（30歳代）に119番通報を依頼した。その後、火元宅に戻りバスタオルと布切れ3枚を水に濡らし、ガステーブルを覆い消火した。	
7	22 時頃	火災・ガス 漏れ複合型 警報器	男性（60歳代）は、自宅台所でガステーブルで調理中、その場を離れて居間で寝てしまったため鍋が過熱し、発煙した。	同じアパートの居住者男性（60歳代）は、警報音に気づき119番通報した。現場到着した消防隊がガステーブルの火を止めた。	非 火 災
7	15 時頃	住宅用火災 警報器	居住者男性（20歳代）がライターで座布団等に火をつけたもの。	男性（50歳代）が、自宅1階で2階廊下に設置してある住宅用火災警報器の警報音に気づき、玄関の外にあるゴムホースを持って2階に駆け上がると、次男（20歳代）が2階の階段降り口に泣きながら立っていた。男性が2階居室を見ると布団から火煙が出ているのを発見した。 妻（50歳代）に、119番通報を指示した後、長男（20歳代）とともに、消火器及び2階の水道蛇口に取り付けたゴムホースを使用して消火した。	
7	16 時頃	住宅用火災 警報器	女性（70歳代）は、天ぷら鍋をガスコンロに掛けたままその場を離れたために天ぷら鍋が過熱し発火した。	女性（10歳代）が、1階リビングルームで、台所の方からの警報音を聞き付け台所に行くと、ガスコンロに掛けてあった天ぷら鍋から炎が上がっているのを発見した。すぐ祖母（70歳代）に知らせるとともに119番通報した。 祖母は、台所に行き、炎が立ち上がっている天ぷら鍋が乗っている五徳を素手で持ち勝手口から外に投げたが消火できなかった。	
7	2 時頃	住宅用火災 警報器	男性（40歳代）は、1階台所でお湯を沸かしている際に2階の寝室で寝てしまったため、お湯が沸騰し空焚き状態となったもの。	男性（60歳代）は、自宅で就寝中、隣家の警報音の鳴動に気づき、隣家に電話したが、応答がないので自宅の電話で119番通報した。消防隊がガスコンロの火を止めた。	非 火 災

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
8	20 時頃	住宅用火災警報器	女性（30歳代）は、2階台所で天ぷらを揚げようと片手鍋に油を入れ、ガスコンロに掛けて火をつけたまま、子供と花火をしていたため、天ぷら油が過熱し発火した。	女性（30歳代）が、自宅前路上で子供と花火をしていると、2階台所から警報音が聞こえたので、油入りの片手鍋を火に掛けていることを思い出し、すぐに2階台所に行くと片手鍋から炎があがっていた。ガスコンロの火を止めた後、携帯電話で119番通報した。なお、女性は、消火のため、片手鍋を移動しようとしたが、熱かったため、持てなかった。	
8	8 時頃	住宅用火災警報器	女性（40歳代）は、味噌汁を温めるため、ガスコンロに鍋を掛けていたが、忘れて会社に出勤した。そのため、鍋が過熱し中に入っていたおたまに着火し出火した。	就寝中の女性（10歳代、）は、警報音が聞こえたので台所を確認すると鍋から黒い煙が上がっているのを発見し、すぐにガスコンロの火を止めた。その後、女性は屋外に避難した。 隣人女性（30歳代）は、隣室の警報音が10分位鳴り続けたため、心配になり屋外に出たところ隣室から煙が上がっているのを発見した。急いで隣室のドアを叩いたが、誰も出てこなかったため自宅の電話で119番通報した。	
8	11 時頃	住宅用火災警報器	居住者男性（60歳代）は、ガスコンロのグリルで魚を焼いていたが、火を消さずに外出してしまったため、出火した。	火元建物の隣に居住する女性（60歳代）は、どこかから警報音がするので不審に思い、自宅を確認したが異常は見受けられなかった。さらに、警報音が鳴り続けていたため、外に出ると、警報音は隣のアパートから出ていることを確認したので、自宅の電話で119番通報した。	
8	6 時頃	住宅用火災警報器	実家に手伝いに来ていた女性（年齢不明）は、味噌汁を作っていたが鍋をコンロに掛け火をつけたまま出かけてしまったため、発煙した。	同じ共同住宅の居住者女性（40歳代）は自室で寝ていると、外から「ピューピュー」という警報音が聞こえたので、窓を開けると「火災が発生しました。」という音声警報と、きな臭いにおいを確認した。すぐ下に行くと、火元室の窓から煙が出ていたので、自室に戻り母親（70歳代）に通報するよう頼み、ガスの火を止めた。母親が自宅の電話で119番通報した。	
8	12 時頃	住宅用火災警報器	女性（30歳代）は、起床と同時に仏壇に線香を2本立て、出かける前に台所から仏壇を見ると、線香がなくなっていたため燃え尽きたと判断し外出した。実際には線香は倒れて仏壇下の座布団に落下し、無炎燃焼を続けて出火した。	同建物居住者男性（30歳代）は、自宅にいるときな臭い匂いを感じたため建物周辺の様子を窺っていたが、周囲に焚火等はなく、火元室の換気口から白煙が出ているのが見えた。インターホンを押したが反応がないため、隣室に知らせるとともに管理人に伝えた。管理人は、現場を確認すると焦げ臭い匂いと室内から「ピーピー」という警報音が聞こえたため、消防署に通報した。消防隊が内部進入し、座布団が燃えているのを発見し消火した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
9	17 時頃	住宅用火災警報器	女性（60歳代）は、天ぷらを揚げた後ガスコンロの火を消したつもりでその場を離れてしまったため、油が過熱され発火した。	女性（60歳代）は、天ぷらを揚げた後、外にいたところ突然住宅用火災警報器が鳴ったので、家の中に入ると台所付近から火が出ているのを発見した。直ぐ、ガスの火を止めるとともに台所にあった粉末消火器と街頭設置の消火器で消火した。また、近隣の会社員男性（50歳代）が会社からバケツを持ってきて消火した。なお、居住者女性は、消火後自分の携帯電話で119番通報した。	
9	18 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）は、台所で天ぷらを揚げ終わったがガスの火を消さずにその場を離れたため、天ぷら油が過熱され発火した。	女性（80歳代）は、居間で食事の準備をしていたところ、煙が漂ってきたので台所を見るとフライパンから炎が天井まで上がっているのを発見した。同建物居住者女性（60歳代）は、外に出たところ火元室の方から「火事です、火事です」と音声警報が聞こえ、火元室から煙が出ていたので自分の携帯電話で119番通報した。同建物前を通りかかった男性（68歳）は、「ピーピー」という警報音がし、音のする方を見ると窓ガラスが赤くなっていたので建物内に入り、見るとフライパンから炎が上がっていたので、ガスを止め近くにあったタオルを水道水で濡らしてフライパンの中に入れて	
9	18 時頃	住宅用火災警報器	男性（70歳代）は、ガスコンロに残りの味噌汁が入った鍋をかけたまま隣の居間でテレビを見ていたところ、ガスコンロに火をつけたことを忘れてしまい空焚き状態となったもの。	男性（70歳代）は、「ピーピー」という警報音で台所に行くと、煙が充満しているのを発見した。 何が起きたか理解できず、隣人の女性（60歳代）に119番通報を依頼した。その後、男性は、自室に戻り使用中のガスコンロのコックを止め、火災には至らなかった。	非火災
9	0 時頃	住宅用火災警報器	男性（20歳代）が、お湯を沸かすため、コンロにやかんをかけて寝込んでしまったため、空焚きになり発報したもの。	隣の共同住宅に居住する女性（30歳代）が自宅にいたところ、警報音を聞き、ドアを開けると北側の共同住宅2階から煙が出ているのを発見した。 女性から知らせを受けた1階の居住者男性（30歳代）が携帯電話から119番通報を行った。	非火災
9	4 時頃	住宅用火災警報器	男性（30歳代）が、アルミ容器に入ったカップめんを、コンロの火にかけて寝込んでしまったため、発煙し発報したもの。	男性（30歳代）は、警報音で目を覚まし、直ぐにコンロの火を止めた。隣室の男性（30歳代）が警報音に気が付き、携帯電話から119番通報を行った。	非火災
9	15 時頃	住宅用火災警報器	男性（80歳代）が、食事の準備中にガスレンジに鍋をかけようとして、誤ってグリルに火をつけ放置したため、グリル内部にたまっていた油かすに着火し火災となったものである。	居住者の妻（80歳代）が、居間でテレビを見ていたところ、警報音と臭いに気付き、台所を確認するとガスレンジ付近から炎と煙が上がっているのを発見した。知らせを受けた夫が119番通報を行った。更に、知らせを受けた隣室の男性が共同住宅に設置してある消火器で初期消火を行った。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
10	15 時頃	住宅用火災警報器	キッチンユニットの背板に配線されていたビニールコードに、引き出しの下部が接触したため配線被服が損傷しスパークした火花が引き出しに着火し出火したものの。	火元建物の長女（10歳）が自宅前で遊んでいると自宅2階から警報音が聞こえ煙が出ていたので、3軒隣の女性（37歳）に知らせた。知らせを受けた女性が火元建物に行くと、2階の窓から警報音が聞こえ煙が出ていたので、自宅の電話から119番通報をした。	
10	15 時頃	住宅用火災警報器	男性（20歳代）は、カレーを温めるため、こんろに鍋をかけて、火を止めるのを忘れて外出したために、発煙し発報したものの。	近所に居住する男性（40歳代）と息子（10歳代）が散歩中に、当該住宅前を通りかかったところ、警報音と煙の臭気に気付き確認したところ、1階の室内から煙が噴出しているのを発見し、携帯電話から119番通報した。 男性が当該住宅の庭から室内を確認すると、こんろ上の鍋から煙が噴出していたので、施錠されていないリビングの窓を開けて内部に入り、こんろの火を止め、窓を開けて換気を行い、再度119番通報を行い状況を説明した。	非火災
10	18 時頃	住宅用火災警報器	男性（60歳代）が、飲酒後に電気こんろのスイッチを入れたまま寝てしまったために、近くに置かれた毛布等に着火し、出火したものである。	共同住宅1階に居住する女性（50歳代）は、トイレできなくさい臭いがしたので外に出ると、住宅用火災警報器の「火事です、火事です」という音声警報を確認し、更に隣住戸の窓から煙が見えたので、自室に戻り自宅の電話で119番通報した。 火元住戸の男性（64歳）は、飲酒後酩酊していたが、火災に気付き避難した。	
10	15 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）が、昼食のため2階台所でガスこんろに味噌汁の鍋をかけたまま、1階事務所で来客対応中に、鍋が焦げ、煙が出たものの。	火災現場の通行人男性（50歳代）が、警報音と煙に気付いたので近所の店に駆け込み、店員に通報を依頼した。 また、火元の隣人も同時に警報音と煙に気付き、火元居住者の女性（70歳代）に火災を知らせた。知らせを受けた火元の女性は、2階に上がり、窓を開放し、ガス栓を閉鎖したため火災には至らなかった。	非火災
10	9 時頃	住宅用火災警報器	2階居室の窓から差し込んだ太陽の光が、窓近くに立てかけられた鏡（凹面）付きラジオの鏡により収れんし、布団部分で焦点を結んだため出火した。	隣に居住する娘（40歳代）は、用事を済ませるため両親の家の勝手口から入ると住宅用火災警報器が鳴動していた。火事が起きたと思い、家の中を探すと2階にある義父の部屋の布団が黒く焦げていたので、1階からボウルを持ってきて2階にある水道を使用し水を掛けて消火した。義父（70歳代）は、帰宅すると隣に住む娘に部屋で火事があったことを聞かされたため、部屋を確認すると布団が焦げていたので119番通報した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
10	4 時頃	住宅用火災警報器	居住者の友人男性（20歳代）は、ライターでたばこに火をつけ吸った後就寝したが、ライター上部に取り付けられているはずの金具が紛失しており、そのため火が消えずにテーブルの上に置かれたため、テーブルに接炎し出火した。	居住者の友人男性（20歳代）は、就寝中住宅用火災警報器の警報音で目が覚め、何気なくテーブルを見たらテーブルの中央付近が燃えていたので、側に置いてあったペットボトル（20）の水で消火し、トイレに入っていた女性（20歳代）に知らせた。女性は火は消えていたが警報器が鳴り続くので自分の携帯電話で119番通報した。	
10	8 時頃	住宅用火災警報器	男性（80歳代）は、朝食用の味噌汁をガステーブルにかけていたが忘れてリビングで新聞を読んでいたため鍋が過熱されて空焚き状態になり発煙した。	男性（80歳代）は、リビングで新聞を読んでいたところ、急に住宅用火災警報器が鳴りだしたので台所を見るとガステーブルの鍋から煙が出ているのを発見した。ガスを消してペルを止めようとしたができなかったので隣家の電話を借りて119番通報した。	非火災
10	16 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）は、台所で鍋をガスコンロにかけて卵をゆでていたのを忘れて外出したため鍋が過熱され発煙した。	近隣の男性（60歳代）が、住宅用火災警報器の「火災が発生しています」との音声警報を聞きつけ、火事だと思い119番通報した。	非火災
10	17 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）は、台所で鍋を電磁調理器にかけていたがその場を離れていたため鍋が過熱され発煙した。	女性（70歳代）は住宅用火災警報器の警報音を聞き、台所に行くも鍋から煙が出ていたので電磁調理器のスイッチを切り、その後110番通報した。	非火災
11	21 時頃	住宅用火災警報器	不明	男性（60歳代）は、自宅2階寝室で就寝中、住宅用火災警報器の警報音で眼を覚ますと寝室内に若干の煙が漂っているのを発見した。ドアを開け廊下を確認すると煙はさらに濃さを増していた。直ぐ火事であると判断し、隣室で寝ていた妻を起こし、さらに、階段右側にある部屋に寝ている長男（30歳代）のドアを叩き避難するよう伝えようとしたが鍵が掛かっており、返答はなかった。仕方がなく二人で避難し、自分の携帯で119番通報した。長男は2階窓から顔を出しているところを消防隊が発見し、救出された。	非火災
11	0 時頃	住宅用火災警報器	男性（70歳代）の寝たばこにより布団等に着火したもの。	火元建物北側に居住する男性（50歳代）は、自宅の居室にいと隣の家から警報音に併せて「火事です、火事です」という音声警報が約10分ぐらい鳴りつづけていたので、自宅の電話から119番通報した。 到着した消防隊は、玄関から室内に入り寝ていた男性（78歳）を避難誘導した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
11	9 時頃	住宅用火災警報器	女性（80歳代）は、神前に赤飯を供えるためレトルトパック入りの赤飯と水の入った片手鍋をガスコンロにかけてそのまま、その場を離れて家の外で近所の人と話しこんでしまったため、鍋が過熱され発報した。	隣に住む会社員女性（50歳代）は、隣の家から「ピーピー」という警報音が聞こえたので見に行くと、勝手口の住宅用火災警報器外部スピーカーから警報音が発生していたので、自宅に戻り119番通報した。	非火災
11	9 時頃	住宅用火災警報器	女性（60歳代）は、パンをオーブントースターに入れスイッチをONにしたまま、部屋の掃除をしていたところ、オーブントースターのタイマーの不具合により、オープン内部が過熱したことにより、パンが炭化し、さらに、本体前面上部が焼損した。	女性（60歳代）は、部屋の掃除をしていたところ、寝室に設置された住宅用火災警報器の警報音に気づき、台所に行くと煙が充満していたので台所に置いてある電話で119番通報した。通報後、オーブントースターから煙が出ているのに気がつき、トースターのコードを壁のコンセントから引き抜いたところ、煙はおさまった。	
11	23 時頃	住宅用火災警報器	男性（20歳代）は夕食のため、レトルトカレーを温めようと片手鍋に入れ、電気コンロにかけてことを忘れ、そのまま寝てしまったため、なべが過熱され発煙した。	近所に居住する男性（20歳代）は、会社からの帰りに共同住宅の前を歩いていると、1階から「火事です・火事です」との音声警報と煙が出ているのを発見した。煙の出ている部屋を確認したところ、台所の電気コンロ上の鍋から煙が出ていたため、スイッチを切り、住人に呼びかけたが応答がなかったためそのまま自宅に帰ったが、心配だったので自宅から119番通報した。	非火災
11	4 時頃	住宅用火災警報器	女性（90歳代）は、仏壇に線香をあげるため、ローソク立てにローソク（5cm）を立てマッチで火を点けた後、何らかの理由によりお供え物のビニールに入ったらくがん付近にローソクが転倒し、木製の仏壇に着火した。	同アパートに住む女性（50歳代）は、病院に行くため朝早く外に出た時、きな臭い匂いと煙が漂っており、1階の火元室から警報音が聞こえたので火事だと思い、持っていた携帯電話で119番通報した。	
11	10 時頃	住宅用火災警報器	女性（60歳代）は、ロールキャベツを煮るため圧力鍋に入れガスコンロに火を点けたまま、忘れて外出したため、鍋が過熱され発煙した。	近所に住む女性（30歳代）は、自宅に居ると住宅用火災警報器の音声警報が聞こえたので外に出てみると、向かいの家から煙が出ているのを発見し、母（70歳代）に知らせた。知らせを受けた母は119番通報した。	非火災

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
11	14 時頃	住宅用火災警報器	男性（10歳代）が、自室で友人とたばこを吸い、完全に消しきれいでいなかった吸殻をごみ袋に捨てたため、周囲のごみくずに着火した。	出火建物内居住者女性（20歳代）は、自室にいと住宅用火災警報器の警報音が聞こえたのでベランダに出てみると、隣室から警報音がしているのを確認した。さらに、白煙と焦げ臭い臭気もしたので火事だと思い大声で周りに知らせた。 同建物居住者男性（20歳代）は、自室で「火事だー」という女性の声を聞き、外に出て、女性と共に煙の出ている玄関の呼び鈴を押し、呼びかけたが応答がなかったので、携帯電話で119番通報した。	
11	11 時頃	住宅用火災警報器	女性(10歳代)が、長期間に渡りアイロンの充電器のプラグをコンセントに差し込んでいたため、トラッキングを起こし出火した。	出火建物内居住者女性（20歳代）は、外に出たところ、「ピンポン・ピンポン」という警報音が聞こえ、さらに北側の壁体に設置してある換気扇から煙が出ているので火事だと思い自分の携帯電話で119番通報した。	
11	4 時頃	住宅用火災警報器	男性（60歳代）は、飲酒後、布団の中で喫煙し、たばこの吸殻を座布団の上にあった灰皿に置き寝込んでしまったため、火のついた吸殻が座布団の上に落ち出火した。	男性（60歳代）は、自室で就寝中、住宅用火災警報器の警報音で目が覚め、座布団から煙が立ち出ているのを発見し、直ぐ自分の携帯電話で119番通報した。その後、ペットボトル（1.5ℓ）の水をかけて消火した。	
11	11 時頃	住宅用火災警報器	男性(20歳代)が、就寝中に寝返り等を行い、使用していたハロゲンヒーターに掛け布団が接触し出火した。	男性（20歳代）は、ベッドで就寝中、住宅用火災警報器の警報音で目が覚め、ハロゲンヒーター付近から炎が出ていたのを発見し、ユニットバスからシャワーホースを延ばし水をかけ、さらに、ベッドの上にある布団も被せて消火した。	
11	20 時頃	住宅用火災警報器	調査中	同建物居住者女性（30歳代）は、自宅にいたところ住宅用火災警報器の警報音が聞こえたので、窓を開けて見ると、隣室の部屋から煙が出ていたので火事だと思い携帯電話で119番通報した。	
11	17 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）は、夕食の準備でフライパンに動植物油を入れ火を点け、階下で友人女性（60歳代）と玄関で立ち話をしていたため、フライパンが熱せられ発火した。	女性（70歳代）は、玄関で友人と話をしていると、住宅用火災警報器の警報音に気がつき急いで台所に行くと、フライパンから炎が上がっているのを発見した。 玄関で立ち話をしていた友人女性（70歳代）は、居住者と共に台所に行くと煙と炎が見えたので居住者の家の電話で119番通報した。 友人女性が炎が出ているフライパンを持って立ちすくんでいると、同じ建物の住人男性（70歳代）が、フライパンを受け取りベランダにもっていき、ボール1杯とバケツの水で消火した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
11	12 時頃	住宅用火災警報器	男性（70歳代）は、昼食をとるために、ガステーブルで味噌汁を温めようと鍋を掛け点火したまま、忘れて近くのスーパーに買い物に出かけたため、鍋が過熱され発煙した。	同じ共同住宅の居住者女性（30歳代）は、用事のため階段を下りて行くと、何かが焦げている臭いと火元室から住宅用火災警報器の警報音を確認した。直ぐ、玄関のチャイムを鳴らしたが応答がないので、心配になり自宅に戻り119番通報した。	非火災
12	16 時頃	住宅用火災警報器	調査中	出火建物の長女（9歳）が、友達と自宅で遊んでいると、台所から煙が出てきて、住宅用火災警報器の警報音を聞きつけたので、道路に友達と避難し、近所の女性（50歳代）に火事を知らせた。 知らせを受けた女性は、建物を見ると玄関が開いており家の中から煙が見えたので119通報した。	
12	4 時頃	住宅用火災警報器	不明	出火建物2階に居住する女性（20歳代）は、自宅居室で就寝中、台所に設置した住宅用火災警報器の警報音で目が覚め、部屋の中を見回すと煙が漂っているのが見えた。直ぐ、3階に行き建物所有者女性（70歳代）に知らせ、二人で1階のシャッター内を確認すると煙を確認したため、119番通報してから外に避難した。	
12	22 時頃	住宅用火災警報器	放火	女性（60歳代）は、火元建物の付近を通りかかったところ、きな臭いにおいと警報音がしたため、近くにいた男性に119番通報を依頼した。 依頼された男性は自分の携帯電話で119番通報した。	
12	19 時頃	住宅用火災警報器	調査中	男性（70歳代）は、台所隣の部屋でテレビを見ていると、台所のガラス戸が赤くなっているのが見えたのと同時に住宅用火災警報器の警報音がしたので台所に行くと、ごみ袋が燃えているのを発見した。流し台に置いてある水桶に水を汲み、ごみ袋に2回かけ消火した後、119番通報した。	
12	13 時頃	住宅用火災警報器	女性（50歳代）は、ガスコンロを使用した後、火を止めるのを忘れて居間で寝てしまったため鍋が空焚きとなり発煙した。	学校から帰宅した隣人女性（10歳代）は、自宅の玄関で警報音と「火災の反応があります」という音声警報を聞き、換気扇から煙も見えたので、チャイムを鳴らしたり、玄関ドアをノックしたが返事がなかったので携帯電話で119番通報した。	非火災
12	13 時頃	住宅用火災警報器	女性（70歳代）は、たばこの火種が座布団の上に落ちたことに気付かず、うたた寝をしたため、無炎燃焼を継続し時間の経過とともに座布団に着火したものの。	女性（70歳代）は、住宅用火災警報器の警報音に気づき、座布団から煙が出ているのを発見し、風呂桶に風呂の水を入れて消火した。 隣棟の女性（60歳代）は、自宅1階にいと隣の建物から住宅用火災警報器の音声警報が聞こえたので、自宅の電話から119番通報した。	

住宅用防災機器等の奏功事例〔平成20年中〕

月	時間	奏功機器	出火原因概要	発見・通報・初期消火	備考
12	20 時頃	住宅用火災 警報器	調査中	<p>ヘルパーの女性（50歳代）は、仕事を終え帰る準備をしていると、台所の方で「ピーピー」という音が聞こえたので、居住者に電話の受話器が外れていないかと聞いたところ、悲鳴が聞こえたので台所へ行って見ると、ガステーブルに載せてあるある鍋から炎が上がっているのを発見した。さらに住宅用火災警報器から「火事です」という音声警報が聞こえ、床にあった敷物に水道水をかけ鍋を覆い、水をかけて消火した。</p> <p>相談を受けたエネスタの職員が119番通報した。</p>	
12	17 時頃	住宅用火災 警報器	<p>女性（50歳代）は、鍋で豆を煮ようとガスコンロにかけたが、忘れて外出したため、鍋が過熱され発煙した。</p>	<p>同建物の自治会長男性が居住者数名から住宅用火災警報器の警報音が鳴っていると聞き、管轄消防署に駆けつけ通報した。</p> <p>消防隊到着時には居住者は外出中であり、ドアが施錠されていたため、ベランダ側の窓を小破壊し、内部に入るとガスコンロの火が点いて鍋から煙が出ていたので、ガスの栓を閉めた。</p>	非 火 災